

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	672500600
法人名	有限会社 カワムラ
事業所名	グループホーム燦燦とざわ
訪問調査日	平成 20 年 9 月 12 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 5 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月29日

【評価実施概要】

事業所番号	672500600
法人名	有限会社 カワムラ
事業所名	グループホーム燦燦とぞわ
所在地 (電話番号)	山形県最上郡戸沢村大字津谷字鞭打野2096-1 (電話) 0233-72-9339

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年9月12日	評価確定日	平成20年11月5日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 28日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84歳	最低	74歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	戸沢村中央診療所
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園地帯の中にあることから、四季折々の美しい風景をホームからも望むことができ、季節の移り変わりも身近に感じられます。管理者と職員が協力し合って築いた地域密着型サービスの理念は、地域住民からの協力や理解も得られ、互いの行き来を通してその実践へとつながってきています。利用者一人ひとりから「2番目の家」と感じてもらえること、「今日は楽しかったね。」と毎日笑顔でいられることなど、利用者一人ひとりを心から大切にしていきたいと考えているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「同業者との交流を通じた向上」について、地域包括支援センター主催の連絡調整会議に参加して学習会や情報交換を行っており、また、グループホーム間の学習会や交換研修等により、互いにスキルアップができるよう取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果については会議の中で職員に周知して改善に向けて取り組んでいる。また、今回の自己評価についても、スタッフ会議で全職員に周知されており、職員一人ひとりから意見を出してもらい取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催したいと考えていたが、参加者が少なく、マンネリ化もしてきたため、現在は4ヶ月に1回、行事の際に利用者の様子や職員の対応を見てもらい、意見をもらう形となっている。会議メンバーの積極的な姿勢や関わり方を引き出している他事業所の工夫や取り組みを参考にしながら、会議のテーマや進め方について検討し、会議メンバーに積極的・主体的な参加を再度働きかけてみる取り組みを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族面会の際に意見等を伺ったり、また、家族や地域の方がホームを訪れた際にも意見を出せるよう苦情箱を設置している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	地域主催の行事に招待を受けて参加したり、地域ミニサロン開催やボランティア受け入れも行いながら、地域との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの一つに位置づけられてから、職員全員で話し合い従来の理念について作り直しており、地域と一方通行の交流にならないよう、互いに行き来する双方向の交流が図られるよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で作り上げた理念をリビングに掲示したり、月1回開催するスタッフ会議でも周知しながら、利用者一人ひとりの意向に添って対応している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域主催の行事に招待を受けて参加したり、地域ミニサロン開催やボランティア受け入れも行いながら、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果については会議の中で職員に周知して改善に向けて取り組んでいる。また、今回の自己評価についても、スタッフ会議で全職員に周知されており、職員一人ひとりから意見を出してもらい取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催したいと考えていたが、参加者が少なく、マンネリ化もしてきたため、現在は4ヶ月に1回、行事の際に利用者の様子や職員の対応を見てもらい、意見をもらう形となっている。	○	会議メンバーの積極的な姿勢や関わり方を引き出せている他事業所の工夫や取り組みを参考にしながら、会議のテーマや進め方について検討し、会議メンバーに積極的・主体的な参加を再度働きかけてみる取り組みを期待したい。

山形県 グループホーム燦燦とざわ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センター主催の連絡調整会議に参加しており、学習会や情報交換を行ってお互いにスキルアップできるように連携している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に加え、利用者ごとに月に1回、暮らしぶりや健康状態を手紙に書いて報告している。また、体調変化等があった場合は随時、電話連絡もされている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族面会の際に意見等を伺ったり、また、家族や地域の方がホームを訪れた際にも意見を出せるよう苦情箱を設置している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の交代があった場合には新任職員には時間を掛けて研修等を行うとともに、利用者からも信頼され、馴染みの関係がスムーズにできるよう配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内や地域で実施される学習会への参加、職員のレベルに応じた外部研修の受講などにより、サービスの質の向上を図っている。また、研修受講後に報告書を作成して全職員に研修内容を周知している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括支援センター主催の連絡調整会議に参加して学習会や情報交換を行っており、また、グループホーム間の学習会や交換研修等により、互いにスキルアップができるように取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの調理法、野菜づくり、縫い物などを入居者から教えてもらったり、ともに行いながら一緒に過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	課題分析の様式には事業所独自のものを使用し、本人の意向や家族の希望等を把握するようにしている。また、日々の中での気づきやアイデアをスタッフ会議等でも話し合うようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の意向を聞き、職員からもスタッフ会議で意見を出してもらいながら介護計画を作り上げている。また、スタッフ会議では介護計画に沿ったサービス内容となっているか確認を行い、利用者本位の介護計画となるよう取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた介護計画の見直し、変化が生じた場合の見直しが行われており、今後は会議の資料や記録も整備したいと考えている。		

山形県 グループホーム燦燦とざわ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	入居前から診てもらっているかかりつけ医に通院したり、協力医療機関の医師の往診を受けたりしており、本人及び家族の意向を尊重してそれぞれ個別に対応されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できる だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した場合等についての対応について利用契約時に説明されており、同意を得た対応がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	言葉遣いや対応等については月1回のスタッフ会議で検討しており、プライバシー等が確保できるよう取り組んでいる。また、個人情報の取り扱いについての誓約が全職員と交わされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の好きな事や嫌いな事、出来る事出来ない事、やりたい事を確かめながら、買物や食事等の希望に添った毎日を過ごすことができるよう支援している。		

山形県 グループホーム燦燦とざわ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	曜日ごとに肉、魚、麺と食材の工夫をしており、具体的な献立内容は利用者とも話し合っただけで決めている。また、食事の準備や調理、後片付けは職員と利用者が一緒に楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員数の問題から男女別の入浴日が決められているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせてゆっくりと入浴してもらいたいとも考えており、利用者の希望をできるだけ尊重しながら週3回は入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの好みや得意分野を把握しており、調理の味付け、畑仕事、機能回復訓練、ぬり絵など、毎日の生活の中で楽しむことができるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの意向に添って散歩や買物、ドライブ等を実施しており、楽しみながら外出できるよう支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	鍵はかけなくても見守りで安全に過ごすことができることをスタッフ会議で全職員に説明、周知しており、日中は鍵をかけない生活を送っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震を想定した避難訓練を消防署員や地域住民の参加を得て実施しているが、地震以外の災害や夜間の災害発生を想定した訓練はまだ実施されていない。	○	地震以外の災害、夜間や冬期間の災害発生などをも想定した訓練の実施が望まれる。また、地域住民の協力がさらに得られるための体制整備も期待される。

山形県 グループホーム燦燦とざわ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事・水分摂取表を作成し摂取量を把握している。また、糖尿病等の入居者にも配慮した食事の提供や毎月の体重測定を行い、一人ひとりに合わせた個別対応がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾り付けが随所に施されており、また、温・湿度計の設置あり、入居者がどこにいても居心地よく過ごすことができるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前に使っていたタンスやテーブル、観葉植物が持ち込まれており、家族の写真や外出時の写真が飾られた快適に安心して過ごすことができる居室となっている。		